

久留米
[March 3, 2025]
高専通信
第100号
久留米工業高等専門学校
〒830-8555 久留米市小森野 1-1-1
TEL : 0942-35-9300
<https://www.kurume-nct.ac.jp/>

卒業生・修了生に贈ることば 『小森野を巣立つ皆さんへ』

久留米工業高等専門学校本科の卒業生ならびに専攻科修了生の皆さん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。それぞれ15歳からの5年と7年（中には本校が大好きでしかたなく？少し長く在籍した学生さんもいますが）、青年から大人に成長していく重要な時期を小森野キャンパスで同年の級友らと喜怒哀楽を共感しながら、勉学に励み様々な事に挑んでこの日を迎えました。

本科卒業生が本校に入学した今から5年前の2020年を思い出すと、前年の11月に中国・武漢市で初めて確認された、新型コロナウイルスSARS-CoV-2を病原体として急性呼吸器疾患などが発症する感染症COVID-19が、瞬く間に我が国や全世界に広がっていきました。本科卒業生の皆さんは2020年の4月に新たな学校生活に夢や期待をもって本校に入学したにもかかわらず、5月のゴールデンウィーク明けごろまで全く授業が行われずに自宅待機が続き、授業が開始されても登校することなく長くオンラインでの受講を余儀なくされました。新入生として新たな学生生活を迎えた本科卒業生だけでなく、在校生だった専攻科修了生の皆さんも、学校生活がその後どうなるのか強い不安を抱いたことでしょう。クラスメイトや先生方と直接に対面して交流できなかったことは、精神的にも大きな負担となったことと思います。その後少しずつ対面での授業が戻ってきましたが、感染の拡大や収束が幾度となく繰り返されて、3年以上の長きにわたって頻繁に授業の実施方法が変わるとともに、感染拡大抑止のために課外活動や学校行事も思うように実施できませんでした。



久留米工業高等専門学校
校長 松村 晶

卒業・修了生の皆さんの在学期間がパンデミック期間と重なり、長く級友や先輩、後輩との共同作業や交流が思うようにできず、懇親を広めかつ深めることが十分できなかったと感じていることでしょう。さらに、高専祭をはじめとする様々な学生行事やインターシップなどの校外活動も十分にできずに、思い出を多く残すことができなかつたと残念に思っているかもしれません。

大学への入学試験もなく青春を思う存分謳歌できる高専での学生生活を十分に楽しめなかつたのは極めて残念ですが、皆さんの前にはこれから前途洋々とした未来があります。日本では人生100年と言われていきます。皆さんの世代ではさらに長くなるでしょう。皆さんには平均して今までより4倍以上も長い人生が待っています。これからも前向きに人生を楽しむことを忘れずに歩んでください。皆さんにはそれができる素養を本校で培っていると私は確信しています。前向きな姿勢は時には思うようにいかずに失敗を生むことになるでしょう。しかし上手くいったとき、特に困難を乗り越えて成功したときの感動は格別です。「感動」は「前進と成長」をもたらします。一方、現状に「満足」して甘んじていると、必ず「後退」につながります。本校卒業生の同窓会などに参加する機会が少なからずありますが、毎回どこでも多くの先輩諸氏が集まり和気藹々と賑わいます。本校の卒業生は本当に明るく前向きで積極的です。多くの前進を体験した自信がみなぎっているようです。皆さんもそのような未来が待っています。

高等専門学校は1962年にわが国独自の高等教育

制度として設立されましたので、一昨年度の2022年に高専制度創設60周年を記念してキャッチフレーズができました。それは「たゆまぬ挑戦、飛躍の高専！」です。このキャッチフレーズは高専生ならびに高専で勉強した卒業生の全員に当てはまるでしょう。60周年を迎えて高専の存在と意義が改めて見直されており、今高専には多くの方々から強い期待が寄せられています。それはすなわち、高専の卒業生である皆さんに熱い期待が寄せられていることに他なりません。

20世紀において人類はそれまでに得てきた科学的知見を基に大きく文明を発達させて、豊かな近代社会を創り上げました。この時は右肩あがりの成長を基軸とするものでしたので、ほとんどにおいて万人にわかりやすい目標に向かってまっすぐ進むことができました。しかし、21世紀に入ると、文明社会の営みによる地球環境への影響や増え続けるエネルギー消費など、負の側面が顕になってきました。さらに、情報化社会の発達によって、人類がこれまで長年かけて構築してきた様々な社会システムや生活様式も大きく変わろうとしています。最近のAIは人類の知性が及ばないところを補うまでに発達してきています。今後さらに発達することは間違いありません。加えて、人口増加と地球規模の人的交流の拡大によって、COVID-19のような新たなパンデミックの危険性が益々高くなっており、人類社会の発展に大きな影を落としかねません。さらに、ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエルのパレスチナ・ガザ地区への攻撃とそれに伴う中東情勢の不安定化のように、第2次世界大戦後に築かれた世界秩序が大きく揺らぎ始めています。

これから皆さんが活躍する社会の今後の発展・展開は、科学技術だけでなく様々な社会情勢の影響が複雑に加わって予測が付きません。高度な文明社会を支えて新たな展開を切り開く工学の内容や位置づけについても、今後の展開は同様に予測不能とされています。すなわち、工学そのものの目的や要素技術の使い道が従来のようにはっきりと決まらず、時とともに大きく変わっていく可能性が十分にあります。目的志向の目的に縛られた価値観はもはやこれからの時代に合わなくなっており、新たな価値の創造が求められています。これは挑戦のチャンスです。工学は人類への「幸せ学」です。皆さんの力で新たな幸せを創造してください。

高専では工学の理論と実践の両方をバランスした専

門教育に加えて、実験・実習・コンテストを多用した実務教育に注力しています。高専卒業生の皆さんは身につけた知識や技術を、目の前にある課題に実践応用する経験を少なからず持っています。そのことはこれからの新たな未知の課題と対峙した時や新たな価値を生み出すのに大きな力になるでしょう。皆さんは高専の卒業生・修了生であることに自信と誇りをもって、いい意味のプライドとして前向きに意識してこれから存分に活躍してください。

私が久留米高専の校長に着任して3年が経ちました。この間に、それまであまり顧みられていなかった本校の校歌に皆さんが慣れ親しんでもらうように、機会があるごとに働きかけてきました。皆さんの本校での5年あるいは7年は、これからの人生において大きな刻印となっています。校歌は久留米高専生と卒業生全員の時代を越えた共通の合言葉です。一人で歌うものではありません。今までは常に級友が周りに居ましたから、校歌を歌う必要はありませんでしたが、これからは久しぶりに再会した同級生だけでなく、初めて会う先輩や後輩とも校歌と一緒に歌うことによってすぐに気心が知れるはずで、そのことは皆さんの人生を豊かにしてくれるでしょう。実は私も皆さんと同時に本校を卒業します。卒業後に皆さんと会った時には一緒に校歌を歌いましょう。



卒業生の言葉



後悔しないために

機械工学科 5年
弓 慧大

学生時代とは短いもので、5年の高専生活も終わりが近づいてきました。私のクラスの5年間を振り返ってみます。

私たちの高専生活のスタートは、入学と同時に新型コロナウイルスが大流行したことにより、クラスメイトと顔を合わせることもなく遠隔授業が開始され、学校行事はほとんど中止、といった散々なものでした。2年生ではやっと学生生活らしい日常を取り戻しつつありましたが、3年生への進級でクラスメイトの8人が留年してしまいました。この時の衝撃は今でも忘れません。

3年生ではレポートも増え内容も難しくなりましたが、高校と違って進学就職まで余裕があり、5年間で最も気楽な時期でした。4年生では専門科目が大幅に増え、毎日のように課題やレポートの締切に追われていた気がします。加えて部活や実行委員などは4年生主体で動きまわし、進学就職のことも考えなければなりません。インターンや工場見学旅行もあり、5年間の中で最も刺激的で、とてもしんどい1年でした。

5年生では進路が決まる早さによって、クラスメイト間でも学校生活の在り方がかなり違うものになりました。早々に進路が決まった人は、趣味や資格の勉強などに時間を使っていましたし、進路が決まらない人は夏休み明けになっても張り詰めた顔をしていました。幸い、私は6月に進路が決まったので、その後は趣味や卒業研究、高専祭の準備や卒アル制作など、色々なことに取り組むことができました。授業が少ない5年生の時期を有効活用するためにも、就職活動や編入試験には余裕をもって臨めるよう行動してみてください。

この長いようで短い5年で得られたものは、人によって大きく異なるでしょう。私のクラスメイトには、マッチングアプリガチ勢の資格マニアのほか、狂ったように課外活動に取り組む努力家、はたまたバイト漬けで毎年留年しかけたうえに就活でも何社も落ち続けるとんでもない奴など、ユニークな人がたくさんいました。彼らがこの5年を振り返ってどう思うのかは分かりません。

私もそれなりに頑張ってきたつもりですが、それでも後悔することはたくさんあります。もっと努力しておけば、素直になっていれば、行動してあれば、と。5年生での体育祭の看板製作のとき、これまであまり関わることもなかった人と話したり協力したりする場面で、特にそう思いました。この人こんなに面白かったんだ、もっと早く関わってればよかったな、と。別にそれがヒトであるとは限らないんです。やってみたら意外と面白いこと、ためになることはたくさんあるはずですよ。あまり面白く無かったり続かなくても、自分には向いていなかったと気づけますし、そのうち役に立ったりすることもあります。

趣味でも部活でもイベントでも、気になることがあるならぜひ、挑戦してみてください。その積み重ねがきっと卒業する時に、高専に来てよかったと思わせてくれます。

全ての若者に
夢を！！！！

電気電子工学科 5年
石橋 崇亮

この5年間は本当にあっという間だった。みんなと溜まったあの河川敷も、臭いがきつかったあの駅前も、汗臭かった寮の脱衣所も、今となっては本当にいい思い出だ。5年間というと、私は今20歳なので、人生の4分の1をこの高専で過ごしたことになる。うそやろ。びっくりだ。良くも悪くもこの5年間はとて短かったように感じる。そんな人生のうちの長い時間をかけた高専生活で、私は何か大きい功績を残せただろうか。最後には席次一桁台にいらしたのだろうか。否、席次は結局30番台どまり、大きな功績なんて残せるわけがなかった。あーもうちょっと真面目に勉強しとけばよかったな。悔しいです。とか言ってね、私はでかい事をたくさん成し遂げた。これ結構胸張って言えます。

私は小さい頃からたくさんの方に興味があった。色々やってみた。けどなかなか全部下手くそで、好きだったスポーツも結局最後までベンチで、成績もまあまあくらいで、なにかができる人がすごく羨ましかった。かっこよく見えた。だから、高専に入って色々やってみた。みんなに「何やりよう？」とか「変なやつ」って言われながら、なにかやってやる気合いで色々やってみた。

色々な人に会ったり、色々なことに挑戦した。金がない時なんて、会いたい社長さんが福岡市内にいる時なんて、久留米から自転車で往復6時間かけて行ったりなんかしました。イベントを自分で開催してみたりもした。「怪しい」「誰がいくん」とか言われながら、全力でやった。結局そのイベントも大ゴケして、借金して、それを返すために長崎まで出張して、冬のクソ寒い中公園で寝たりなんかしました。

そんな中自分は音楽に出会った。昔から音楽は好きだったが、そこで初めてアーティスト側になりたいと思った。そしてDJを始めた。金は一文無し。時間を自分の好きなことに使いたかったから、バイトもしなかった。最初は文化祭で島人ぬ宝とか流して、ほかのDJの人からはめっちゃ批判くらった。でもそこで諦めなかった。たくさん勉強して、それまでに培ったビジネスや、ブランディングの知識を活かして、頑張りまくった。そしたらちょこちょこ色んなところに呼ばれるようになった。

Zero tokyo (Zepp Shinjuku) というクラブへの出演が決まった。これは、私が2年生の時の文化祭のステージで、お客さんが少ない中みんなに熱く語った夢だった。

まあとりあえず私はもっとビッグになって、この高専に私が在籍してたことなんて、すぐ伝説になるけん。

あの時バカにしてきた奴ら、羨ましいやろ。いいやろ。まだ間に合うぞ。人を批判してる時点でお前は成長できんぞ。お前もお前らしく頑張れ。

自分の好きなことを、夢を、追えるチャンスを与えてくれた高専に感謝。優れるな。異なれ。

卒業生の言葉



高専生活を 振り返って

制御情報工学科 5年
岳 大登

私が入学したときは、コロナウイルスが流行り始め、さまざまな制限を受けながら学校生活を送りました。入学式や夜須研といった1年生のイベントもなくなり、入学から3ヶ月間くらい1人で遠隔授業を受けていたことを今でも覚えています。その後、遠隔授業が終了しても多くの制限が続きましたが、学校行事等はなんとか開催されました。そして、徐々に普通の学校生活に戻っていきました。この5年間で私はさまざまな経験をすることができましたが、その中でも特に印象に残っている2つの出来事があります。

1つ目は、令和6年度体育祭にて制御科の看板長として活動したことです。高専でリーダーとして活動したのは看板長が初めてで、大変苦労しました。メンバーも6~7人ほどで、難しいイラストを完成させるために1日6時間くらい活動していたのをよく覚えています。これだけ長い時間を看板製作に捧げてくれたメンバーには、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。そして、制御科の看板はメンバー全員の力で無事完成し、1位という結果を得ることができました。私自身、創作活動で1位を取る経験がこれまでなかったもので、本当に嬉しかったです。

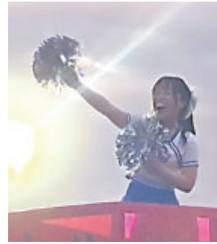
2つ目は、国際学会に参加させていただいたことです。私の所属している研究室では国際学会への参加を積極的に推奨しており、私は2回ほど参加させていただきました。初めての海外で、英語が話せるか不安でした。実際には下手な英語しか話せず、先輩方に助けてもらうことが多かったのですが、とても貴重な経験でした。また、国際学会では他校の学生や教授と交流する機会があり、大変刺激的で学びの多い時間を過ごせました。

私にとって高専生活5年間はとても短い時間でしたが、とても楽しい時間でした。私が田舎の中学出身ということもあって、高専生活で経験したことはどれも新鮮でとても刺激的でした。また、文化祭や体育祭、クラスマッチといった学校行事から普段の生活まで、多くの思い出を作ることができ、この5年間の高専生活に後悔はありません。私は高専で過ごしたこの時間や経験を活かし、さらに新しい学びや活動に挑戦していきたいです。

最後に、60sのみんな、今までありがとう。60sはクラス全体の仲が良く、とても過ごしやすく楽しいクラスでした。何年後かに同窓会を開ける日を楽しみにしています。また、福岡に帰って来た時は連絡してください！

また担任の中野先生、普段の学校生活や授業、進学活動などでさまざまなご相談に乗っていただきありがとうございました。大変助けになりました。

そして両親へ。寮生活で離れて暮らしていたため、心配も多かったと思いますが、たくさん支えてくれてありがとうございました。この5年間の支えに心から感謝しています。まだまだ迷惑かけると思いますがよろしくお願ひします。



5年間に 感謝を込めて

生物応用化学科 5年
松永 和

私たちが入学した2020年はコロナ禍で、初めてクラスメイトと顔を合わせるはずだった入学式もたくさんの人と仲良くなるはずだった合宿も行われずに始まりました。クラスメイトの顔も知らないままオンライン授業だけが始まり、とても不安だったことを覚えています。その後みんなが登校できるようになって、一緒に実験をしたり、友達と話しながらお弁当を食べたりしてから、やっと高専生活が始まるんだと期待に胸を膨らませました。オンライン授業から始まった高専生活だったからこそ、友達と対面で会える喜びと一緒に学ぶ楽しさをより実感できた学年だと思っています。

そうして始まった5年間の高専生活。当初は長いと思っていましたが、始めてみればあっという間で、それでいて非常に充実した5年間でした。この5年間で私は多くの経験を重ね、大きく成長することができました。私が成長するきっかけとなったものは2つあります。

1つ目は、高専で出会った人々です。高専は全国から様々な場所で育った人たちが集まります。中学校までの地元の友人とは少し異なる個性豊かな仲間たちと出会い、多様な価値観や考え方に触れることができました。また長期休みには色々な場所に旅行する機会にも恵まれました。高専で出会った人々のおかげで私の世界は確実に広がり、挑戦することの大切さを学ぶことができました。

2つ目は、学生が主体的に動くことが求められる高専の環境です。3年生の高専祭では1からストーリーを考えて、材料を調達して小道具や通路を作り、お化け屋敷を企画・実施しました。また4年生の高専祭では公開実験の代表を務め、材料の調達や展示物の準備、模擬実験など計画から当日の運営までをすべて学生主体で行いました。どちらも多くの方に来ていただき、大成功を収めることができました。これらは自主性を重んじる高専ならではの環境だからこそできた貴重な経験です。

春からは、高専とは異なる大学で新しい生活が始まります。新しい環境ではこれまでとは違った人々や考え方に触れ、自分の視野をさらに広げていきたいと思っています。一方で、不安を感じることや壁にぶつかることもあるでしょう。そんな時は久留米高専での5年間で培った経験や学んだこと、そして共に5年間歩んだ仲間たちの存在を思い出して、前を向いて頑張っていきます。

最後になりましたが、入学当初何も分からなかった私たちに温かくご指導くださった先生方をはじめ、5年間お世話になったすべての方々に心より感謝申し上げます。そしてどんなときも支えてくれた家族、たくさんのことを共に乗り越え毎日を楽しい日々を彩ってくれた仲間たちに心からありがとうを伝えたいと思います。5年間本当にありがとうございました。

卒業生の言葉

5年間の
高専生活を通して

材料システム工学科 5年
内野 匡人

この春、私は久留米高専の材料システム工学科を卒業します。振り返れば、この5年間は本当にあっという間でしたが、とても充実していて、忘れられない経験と思い出に満ちていました。学校行事や授業を通じて多くのことを学び、かけがえのない仲間たちとともに成長することができました。

入学当時、世界ではコロナウイルスが流行しており、入学式は中止。登校禁止期間も続き、入学当初クラス全員が揃うことがありませんでした。私の地域が登校できるようになった頃には、すでにクラスメート同士の仲が深まっており、その輪に入れるか不安でした。ですが、声をかけてくれた人たちのおかげで安心し、すぐに学校生活に慣れることができました。また、体育祭や高専祭、加工実習などを通して、高専生としての自覚が芽生えました。

2年生では高専初めての実験が始まりました。中学校では体験できなかった本格的な実験に心を躍らせる一方、初めての実験レポート作成に苦労し、何度も徹夜することがありました。しかし、実験を重ねるうちに少しずつ慣れ、効率よく進められるようになり、実験の楽しさや学びを深く感じられるようになりました。

3年生になると専門教科が大幅に増え、それまでの2教科から一気に6教科に増加しました。一般教科も含めると10数教科となり、試験前は膨大な量の勉強に追われました。それでも、この時期に培った知識はその後の学びの基盤となり、専門分野への興味や理解を深めるきっかけになりました。試験や授業を通じて自分の成長を実感できた1年だったと思います。

4年生では進路について真剣に考える時期を迎えました。進学が就職かという人生の大きな選択に悩みながら、自分の目標や将来について深く考えるようになりました。学生実験ではレポートの量が増え、30ページ以上のレポートを作成することもありました。この経験は卒業研究に大いに役立ち、レポート作成や課題解決能力が大きく向上したと感じています。

そして高専生活最後の5年生では、文化部発表会や体育祭、高専祭、高専大会など、すべての行事が「最後」となる1年でした。一つひとつの行事を通じて5年間の思い出を振り返りながら、卒業が近づいていることを実感し、感慨深い日々を過ごしました。仲間たちとともに取り組んだこれらの行事は、私にとって忘れられない宝物です。

この5年間を通じて、私は仲間と協力することの大切さ、日々の努力の意義、そして物事に全力で取り組む楽しさを学びました。また、多くの専門知識を身につけたことで、自信と目標を持てるようになりました。これからもこの経験を生かし、さらに努力を重ねていきたいと思っています。

最後に、これまで支えてくださった先生方、そしてともに学んできた仲間たちに心より感謝申し上げます。5年間、本当にありがとうございました。

修了生の言葉



感謝

機械・電気システム工学専攻 2年
青山 知弘

中学3年当時、進学したい公立高校は決めていたものの、「受験のチャンスが増えるから」とか「不合格になってもいいや」といった軽い気持ちから始まった高専への道。「電気系に興味を持っていたはずなのに、今までまともにパソコンに触れてこなかったのに、なんで情報系の制御情報工学科を受験したんだろう」といった疑問は、今になっても分かりません。ただ、今振り返ると、高専ではなく別の学校に通っていたら、流されるままに勉強し、将来何をやりたいのか深く考えずに過ごしていたのではないかと思います。そう考えると、高専に通うことでやりたいことを見つけ、それを基に自分で就職先を選ぶことができた現在の自分を考えると、高専を受験して、入学を決意してくれた過去の自分に感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、入学してからあっという間に過ぎてしまった本科の5年間。卒業とともに多くの仲間が高専から旅立ちましたが、私は専攻科に進学しました。専攻科ではイベントごとは一切なく、本科がクラスマッチで楽しそうにしているのを横目に授業に取り組み、蚊帳の外に感じる高専祭、毎授業ごとに出される課題、そして研究のために何時間もパソコンと向き合う日々。そんな専攻科の生活の中でも、特に印象に残っているものがあります。それは「創造工学実験」という授業です。この授業は「社会に役立つもの」をテーマに、複数コースの3人グループで時間・予算などの限られた条件下で設計・製作を行うものです。モノ作りという点では、社会での実践に一番近い科目だったと思います。製作にあたっては、購入した重要なパーツが全く使い物にならなかったり、3Dプリンターの印刷がうまくいかなかったりと、数多くの困難がありました。しかし、グループ内で切磋琢磨し、先生方から助言をいただきながら、最終的に思い描いた成果物を完成させたときの達成感は、言葉では表せないほど大きなものでした。この達成感は、支えてくださった先生方、そして共に悩みながら努力を続けてくれたチームメンバーのおかげで得られたものです。皆さんの支えがなければ、ここまでの成果を上げることはできなかったと感じています。本当にありがとうございました。

ついに小学校よりも長かった高専生活の7年間、そして最後の学生生活の幕が閉じます。この7年間で得た知識や経験、そして友人たちとの思い出は、私の人生においてかけがえのない財産となりました。これからも高専での学びや経験を糧に、さらなる成長を目指していきたく思います。最後に、制御情報学科58期生、専攻科40期生、制御情報工学科をはじめとするこれまでお世話になった先生方、そして今まで22年間支えてくれた家族に深く感謝いたします。

修了生の言葉



物質工学専攻 2年
古賀 紀后

文武両道、そして感謝

中学3年の2月、第一志望不合格による葛藤を経て、高専入学を決意しました。この時は私が7年間、久留米高専の材料の学生として頑張ることになるとは思わなかったでしょう。ついこの3月、2018年から始まった7年間の高専生活に終止符が打たれるのです。これまでの高専生活で喜怒哀楽、様々なことがありました。喜びを分かち合い、私が苦しい時、支えてくれたのは友人や後輩たちでした。この場をお借りして7年間を振り返るとともにお世話になった方々に感謝の気持ちを述べようと思います。

本科生の時、放課後は友達と一緒に勉強と大好きなサックスの練習をして過ごしました。コロナ禍で続いた遠隔授業の影響でモチベーションが下がった時期もありましたが、友達と一緒に勉強したり教え合ったりすることで、満足のいく結果を残すことができました。部活動では、5年の時に出場したコンクールで部として久しぶりの銀賞をとれたことが一番の思い出です。嬉しさのあまり涙が出てきたのは今でも覚えています。これは先生のご指導や、部員が一丸となり集中して練習に励んでくれたおかげだと思います。

本科5年の末、ポスター発表でベトナムに行くことができました。会場で自分と近い研究をしている学生と話げできたことは大変印象に残っています。また、研究に対するモチベーションの向上にもつながりました。ほかにも、専攻科では原子力関連の研修でカナダや長岡技科大、国際交流として韓国や台湾に行くことができました。このように、海外経験や学科で学ぶこと以外についても勉強できて、久留米高専の学生で本当に良かったです。

専攻科に入ってから、先生や友達から「古賀さんはよく頑張っている」と言われるようになりました。私の頑張り見て評価してもらえているのだと嬉しくなる一方、納得はできていません。なぜなら、私の思い描いていた専攻科生の像と比べると劣っていると感じるからです。私は要領が悪く、何に対しても100%の力をかけてしまいます。そのせいで特に専攻科1年では締め切りのある課題に時間をかけすぎてしまい、あまり研究を進めることができませんでした。専攻科2年では、授業の数が少なくなり研究に充てられる時間が増えました。しっかり研究に取り組めたとはいえるものの、まだまだ頑張れたのではないかと少し後悔も残ります。研究を集中して進めようと、長期休みに毎日研究室へ通ったのはいい思い出です。

来年度からは大学院に進学し、触媒の研究を進めていきます。研究は複数の解析を通して、パズルのように謎が解けていくところに面白さを感じています。これからも自分のできに満足することはないかもしれませんが、しかし目標を高く持ち、日々コツコツ自分のペースで研究に励んでいこうと思います。

最後に、7年間私を支えてくださった研究室の小袋先生をはじめとする先生方、先輩、級友、後輩、皆様に感謝いたします。

本科5年クラス担任・専攻科主事からのメッセージ



機械工学科
中武 靖仁

贈る言葉

クラスの皆さん、卒業おめでとう！

これから新しいステージに進む皆さんに、いくつかの言葉を贈ります。

- ・挑戦することを心掛けて下さい。高専で培った知識と技術は、皆さんの大きな武器です。新しいことに挑戦し、自分の可能性を広げて下さい。
- ・失敗を恐れないで下さい。失敗は成長の一部です。失敗から学び、それを次の成功へのステップにして下さい。
- ・仲間を大切にして下さい。高専で出会った仲間や先生方との絆は、これからの人生でも大きな支えになります。仲間を大切にし、まわりの方々に感謝の気持ちを忘れずにして下さい。これからの皆さんの活躍を心から応援しています。



電気電子工学科
ウリントヤ

前を向いて

これからはそれぞれの新しいスタート点に立ち、また様々なことを経験しながら、学び続け、大人へと成長していくでしょう。ハッピーなこともいっぱい待っていると思いますが、大変なこともきっとあります。大変な時こそ冷静で焦らず、物事を前向きに受け止めて自分を守って前を向いて進んでほしいです。新生活には期待も不安もあると思います。なんでも始まる前は不安で、やり出せば楽しめるものが多いと思います。その若くて元気なパワーを自信に勇気をもって積極的に前へと進んでください。例えどこかで失敗したとしてもそれも糧にし、大きく成長行ってほしいです。皆さんの元気で楽しく活躍できることを心より願い、陰ながら応援しております。

本科5年クラス担任・専攻科主事からのメッセージ



制御情報工学科
中野 明

素晴らしい未来を切り拓いて

制御情報工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これから続くあなたの人生は、無数の選択で形作られていきます。時には、自分の意図しない選択を迫られることもあるでしょう。しかし、重要なのは「何を選んだか」ではなく、その選択を「どう活かし、最大化するか」です。どんな状況でも可能性を広げる視点を持つことが、未来を切り拓く鍵となります。そのためには、俯瞰的な視点で物事を分析する力、困難な状況にもユーモアを持てる余裕、そして学び続ける姿勢が必要です。あなたには、まだまだ大きな伸びしろがあります。挑戦を恐れず、自分の力を信じて進んでください。これからの活躍を心より楽しみにしています！



生物応用化学科
中島 めぐみ

卒業によせて

皆さんは入学時からコロナの影響で、前例のない高専生活をスタートした学年です。キャリア教育の一環として低学年で実施している工場見学に行くことも叶わず、進路決定に重要な4年生を迎えました。(初)担任の私とお互いに不安を抱きつつのインターンシップ。書類を作り上げる作業のなかで、皆さんからは「働くということ」「今後どのような進路を選択するか」を意識した強い熱意を感じました。入学時が不自由な状況だったからこそ自ずと芽生えたハングリー精神が原動力だったのではないのでしょうか。皆さんが自分自身の能力を存分に発揮し、望んでいた進路への第一歩を踏み出したことをとても嬉しく思っています。ご卒業おめでとうございます。



材料システム工学科
清長 友和

社会人としての心構えについて

材料システム工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これから就職先や進学先、また進学する学生さんも最終的には就職先で頑張っていくことになります。社会に出ると学生時代の勉強の出来やどこの高専・大学の出身であるかは関係なく、優れた成果を出すことができたかどうかで評価されるかと思います。しかし勉強ができて、かつ技術者・研究者としてのセンスが相当あったとしても一人で成果を出すことは難しく、周囲の人達からの支えを受けていくことになるでしょう。他者からご支援をいただけていることに常に感謝し、敬意を払って接してください。また無理のない範囲で周囲の人達を助けてあげられる人になってください。



専攻科主事
川上 雄士

I can't get no SATISFACTION

“Stay Hungry, Stay Foolish”, アップルコンピュータ創始者の Steve Jobs がスタンフォード大学の卒業式で卒業生に贈った言葉です。現状に満足せずに、いつも飢えて、馬鹿者であれとのこと。彼は“You've got to find what you love”とも言っています。自分が好きなこと、やりたいことがわかっている人はそのことに邁進してください。好きなことややりたい事がまだわかっていない人は、先輩、上司、先生から言われたことをとりあえず一所懸命にやってみてください。その場にとどまらず、常に動いて、挑戦を続け、転がる石である皆様に幸多からんことを祈ります。

専門学科長による学科紹介

機械工学科



機械工学科
学科長 石丸 良平

機械工学科では1年生から5年生までの各学年で実験や実習を行い、これらを通して実践的・創造的技術者になるための基礎を体得します。

1～3年までの低学年では「機械加工実習」を行っています。機械、工具、計測器等に触れ、加工に関する基礎的な現象を体得します。単にモノを作るだけではなく、熱、音、匂い、振動、手触りなどを経験することで、今後の設計や解析など行う上で必要な知識を得るとも重要な実習になります。

1、2年生では、製品のできる流れを理解する実習を行います。木型、鋳型・鋳造、旋削、ハツリ・ヤスリがけの実習は製品ができる基本的な工程になります。また、変形加工として鍛造の実習も行います。

3年生では、応用としていろいろな加工にチャレンジします。平面を加工するフライス盤、製品の表面を滑らかにする研削盤、歯車を作るホブ盤、コンピュータを使ったNC加工などが新たに加わり、様々な加工を学びます。機械加工実習により、技術者としての綿密な観察、ものの見方、安全行動などを身に付けます。

4年生では「機械工学実験」を行います。ここでは、工業力学、材料力学、熱流体工学、設計工学など主要な分野に関連する実験を行い、各分野の現象や理論について理解を深めます。実験を通して、目的・内容の理解、結果の整理・解析・考察能力、チームによる共同作業・レポート作成能力などを修得します。

5年生では「機械要素設計実験」を行い、5年間の学習の総まとめをします。ものづくりにかせないデジタルエンジニアリングについて学び、材料強度・振動・熱流体などの分野について最適設計を行います。3次元CADや3次元プリンタを用いて、設計、加工、検証試験、評価、再設計といった一連のものづくりサイクルを経験し、デジタルものづくりに挑戦します。

5年間の実験・実習を通して、実践的・創造的技術者としてのスキルを身に付け、将来のエンジニアとして活躍することを期待しています。



鋳造実習（2年生）



NC加工（3年生）



歯車の測定（4年生）



機械要素設計実験（5年生）

専門学科教員による研究室紹介

機械工学科・中武研究室



機械工学科
教授 中武 靖仁

環境エネルギー工学研究室は、本校機械工学科1987年卒22期生の中武を指導教員とし、環境に配慮したとエネルギーの技術開発に関する研究を行っています。令和6年度は専攻科2年生1名、1年生2名、本科5年生4名が在籍しました。現在、主に以下の2つの研究を行っています。

1つ目の研究は、内燃機関（ディーゼルエンジンやガスタービンなど）用の燃料にファインバブル（直径が100 μ m以下の気泡、マイクロバブルや微細気泡とも言う）を添加することで、エンジンから排出されるCO₂、NO_x（窒素酸化物）や黒煙（すす、PM）といった地球温暖化ガスや有害排気ガスを低減させる研究を行っています。本研究は慶應義塾大学、東北大学や民間企業と共同で研究を行っています。

また、本研究は数年前までNEDO戦略的省エネルギー技術革新プログラム、現在は科学研究費補助金基盤研究（B）に採択され支援を受けています。

2つ目の研究は、エコランカー（低燃費競技用車両）に搭載するための世界最小のディーゼルエンジンの開発を行っています。エコランカーのエンジンは、通常小型に優位なガソリンエンジンが採用されています。燃費世界記録もガソリンエンジンの407.9km/Lとなっています。しかし、熱力学の教科では、ガソリンエンジンよりもディーゼルエンジンの方が、圧縮比が高いため熱効率も高い、すなわち燃費が良い！と学習します。ではなぜ、エコランカーの世界ではディーゼルエンジンが少ないのかというと、圧縮比が高くなると機械の構造を頑丈にするため重量が重くなり、小型になるほどエンジンの重量に対して、出力の優位性がなくなってくるからです。本研究は、民間企業と共同でディーゼルエンジンの小型化と高性能化に挑戦しています。近い将来、世界最小のディーゼルエンジンをエコランカーに搭載し、さらにファインバブル燃料技術を組み込んでディーゼルエンジンの燃費世界記録を目指しています。



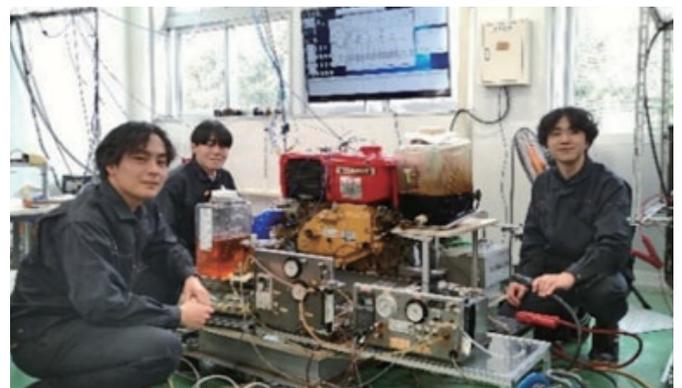
1日体験入学での実験室公開の様子



エコランカーの設計・製作風景



技術職員による
エコラン用小型ディーゼルエンジンの組立・整備指導



ファインバブルを添加した
バイオディーゼル燃料を用いた排出CO₂削減

専門学科長による学科紹介

電気電子工学科

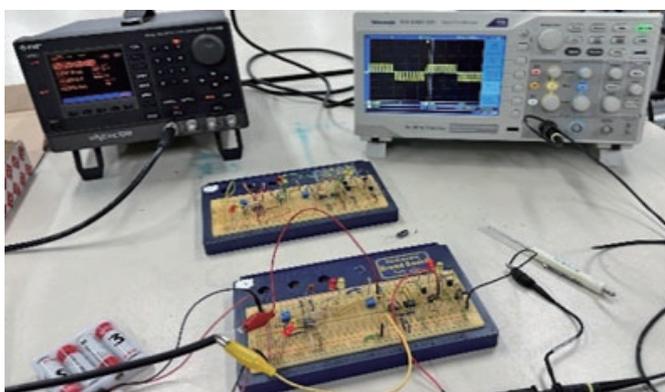


電気電子工学科
学科長 宮崎 浩一

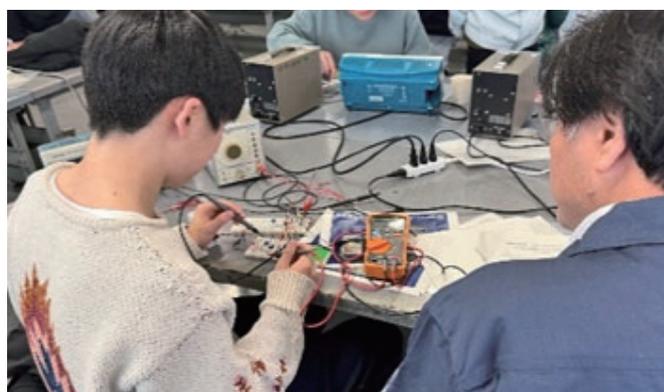
電気電子工学科4年生通年科目『電気電子実験2』では、4名程度の班に分かれ、後期分は①太陽光発電と系統連系、②誘導電動機、③同期発電機・電動機、④パワーエレクトロニクス、⑤HDL (Hardware Description Language) による論理回路設計の5テーマの実験を行います。今回は④「パワーエレクトロニクス」の単相PWMインバータ回路製作について紹介します。

インバータとは、流れる電流の方向と大きさが一定の「直流」を、流れる方向と大きさが変化する「交流」に変換する回路のことですが、その装置を指す場合もあります。PWMインバータは、交流の正弦波（sin波）電圧の大きさの変化を、電圧のパルス列のパルス幅の変化に変換するインバータです。このインバータ装置は、エアコン、洗濯機などの家電の他、電車や電気自動車（EV）、エレベータや工場のコンベアなどで、主にモータの速度を調整するために使用されています。インバータ装置を使用すると、効率良くモータの速度調整ができ、省エネルギー、地球温暖化防止につながります。本実験は、PWMインバータ回路の製作と出力電圧波形の測定を行い、インバータの回路動作について理解を深める内容となっています。

学生は個別に、回路図を見ながらブレッドボード上にオペアンプIC、抵抗、コンデンサ、トランジスタ、ダイオード、LEDといった電子部品を差し込んで配置し、半田付けなしで回路を製作します。そして電池ボックスを接続することで回路を動作させ、LEDの点滅でその動作状態をおおよそ確認できるようになっています。さらに、出力電圧波形をオシロスコープで測定することで、詳細な動作状態を確認し、実験内容、実験結果、考察などを報告書にまとめて提出します。個々の学生が配線の間違いなど失敗をしながら回路を作り上げ、正常に回路が動作したときには達成感が得られるとともに、インバータに関する理解が深まっているようです。



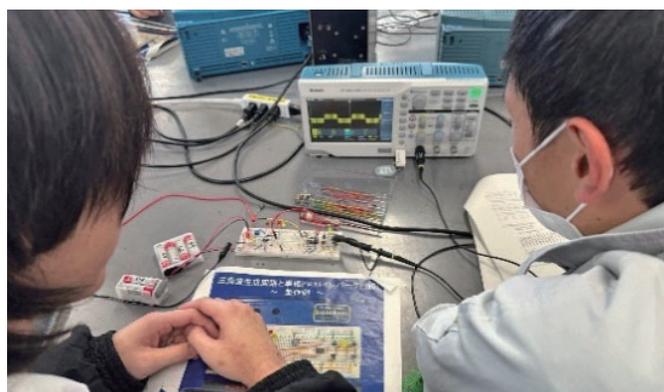
単相PWMインバータ回路実験機器



単相PWMインバータ回路製作 1



単相PWMインバータ回路製作 2



単相PWMインバータ回路波形測定

専門学科教員による研究室紹介

電気電子工学科・宮崎研究室



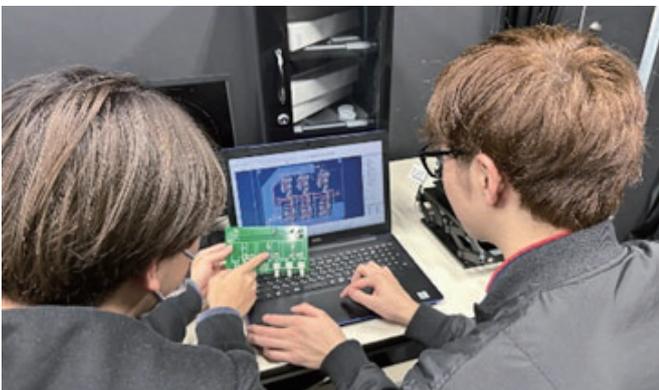
電気電子工学科
教授 宮崎 浩一

宮崎研究室では、現在、(1) 大気圧低温プラズマジェット生成装置の製作、(2) 大気圧低温プラズマジェットのレーザー応用計測、(3) 大気中の光散乱現象を利用した高強度レーザー光のビームプロファイル測定、(4) 永久磁石同期モータのベクトル制御に関する学生用実験システムの構築の4テーマについて研究を進めています。

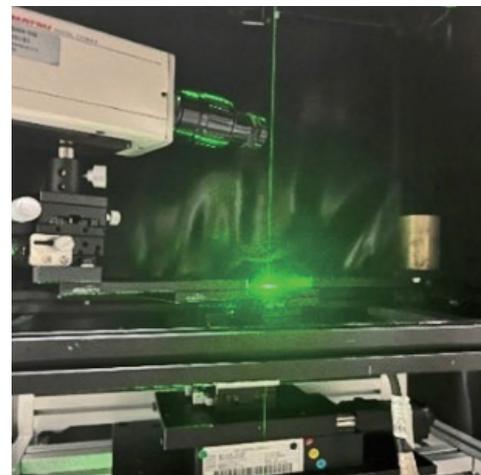
(1) および(2)の大気圧低温プラズマジェットは、真空容器を必要とせず大気中で比較的容易に発生でき、室温程度のプラズマであるため、これまでのプラズマの応用分野を以外にもプラズマ治療、殺菌処理、有害物質分解等、用途が広がっています。

(1) ではSiC-MOSFETで構成した小型マルクス回路による高繰り返し高電圧パルス生成回路を製作し、(2) ではプラズマ中の電子、イオン、ラジカル、分子の挙動を把握するために、プラズマ中にレーザーを入射して散乱光を観測し、それらの密度や温度の計測を試みています。(3) の高強度レーザー光は金属等の加工に用いられ、そのビームの品質が加工した製品の品質を左右するため、ビーム断面の光強度分布(ビームプロファイル)の測定が必要とされています。従来の方法では測定が難しく、本研究では大気中でのレーザービームの光散乱現象に加えてコンピュータモグラフィ法を用いることで、光強度の高いレーザーでも問題なくリアルタイム測定が可能であることを示そうとしています。なお、この研究は科学研究費の助成を受けています。(4) の永久磁石同期モータは電気自動車や電車等に広く用いられており、高いエネルギー変換効率を有するため、環境やエネルギーの問題解決に寄与しています。このモータの駆動技術には、ベクトル制御技術、インバータ回路技術、センサ回路技術等、様々な要素が絡み合っています。

本研究では、これらの技術を学生実験でわかりやすく理解できるような実験システムを構築しようとしています。



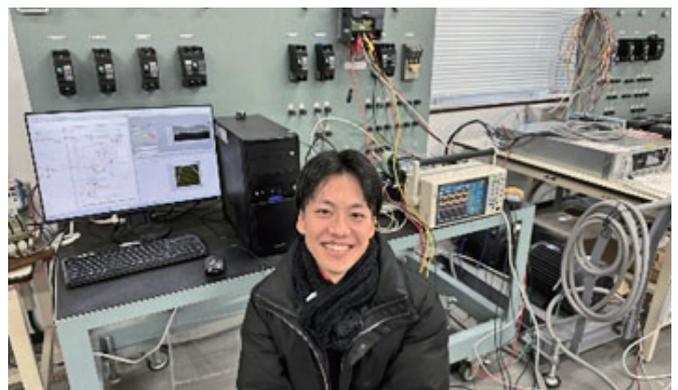
プラズマ生成回路製作



レーザービームプロファイル測定装置



レーザービームプロファイル測定実験



永久磁石同期モータ駆動実験

専門学科長による学科紹介

制御情報工学科



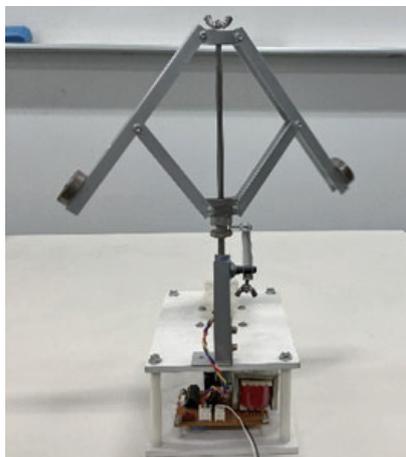
制御情報工学科
学科長 小田 幹雄

制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成します。専門の授業で教える技術分野は、メカトロニクス工学分野と情報工学分野の二本柱になります。

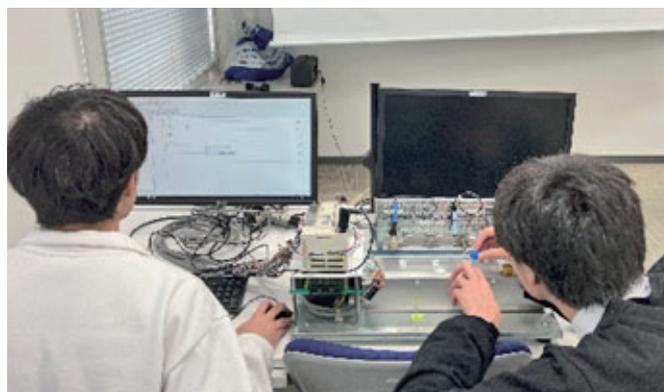
メカトロニクス工学に関連する実験・実習には、「加工実習（2年次）」、メカトロニクス工学に関連する実験・実習には、「加工実習（2年次）」、「電子情報実験（5年次）」および「制御工学実験（5年次）」があります。加工実習は、メカトロニクス系エンジニアに必要な機械加工、電気回路製作・組立てを実習します。各工程を経て、学生一人一台ずつガバナの模型を製作します。ガバナとは、ワットが発明した回転機の调速機のことです。製作した模型を通じて、回転機の回転速度を一定に保つための制御装置の原理も理解します。電子情報実験は、トランジスタや演算増幅器をはじめとする半導体素子の特性測定やトランジスタなどを用いて構成される論理回路の動作を観測します。これらの素子や回路の実験を通して、電子技術と情報技術の接点となる技術分野を理解します。制御工学実験は、計測工学および制御工学に関する実験です。

センサおよびアナログ・デジタルフィルタの実験、シーケンス制御やPID制御の実験を行います。センサや制御の要素技術の集合体であるロボットの実験もあります。

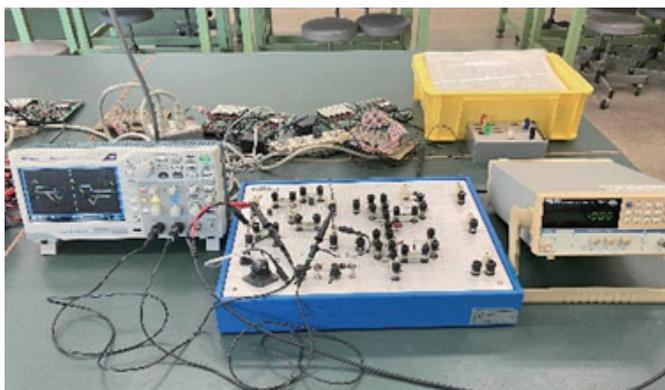
情報工学分野に関連する実験・実習には、「情報通信実験（5年次）」があります。情報通信実験では、通信ネットワークに関する実験をします。暗号/復号機能をもつクライアント/サーバプログラム（JAV A言語）の作成、OSのコマンドやアプリケーションソフトウェアを用いた通信プロトコルの観測および公開鍵暗号化方式による鍵の作成やデジタル署名の作成などです。なお、C言語などのソフトウェアに関する実技は、実験・実習ではなく、プログラミング1などの講義・演習科目で行います。



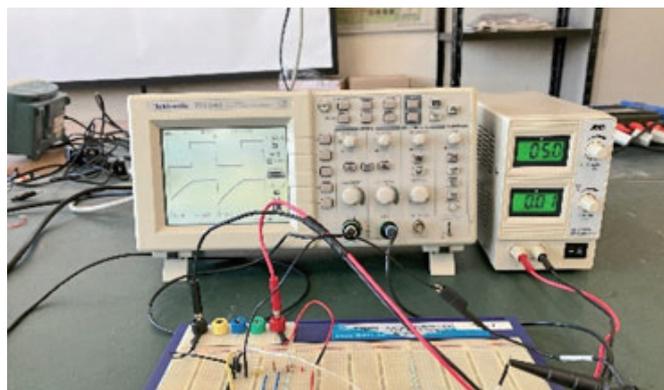
加工実習



制御工学実験



電子情報実験 1



電子情報実験 2

専門学科教員による研究室紹介

制御情報工学科・松島研究室



制御情報工学科
教授 松島 宏典

映像メディア実験室（松島研究室）では、先進的な科学技術と実用的な工学課題の融合を目指し、革新的な研究を推進することで、優れた技術者として社会に貢献できる人材の育成を目指しています。本研究室は、コンピュータビジョン、パターン認識をコアとして、安全運転支援技術、自動運転技術、自己位置推定技術等に関連する幅広い分野の研究を行っています。そして、国内外から多様な研究者や企業、学生と交流することにより、グローバルな視点で問題解決に取り組んでいます。現在は、専攻科生13名、本科生5名が所属しており、将来を見据えた低学年生の研究サポートも行っています。

●主な研究テーマと特徴

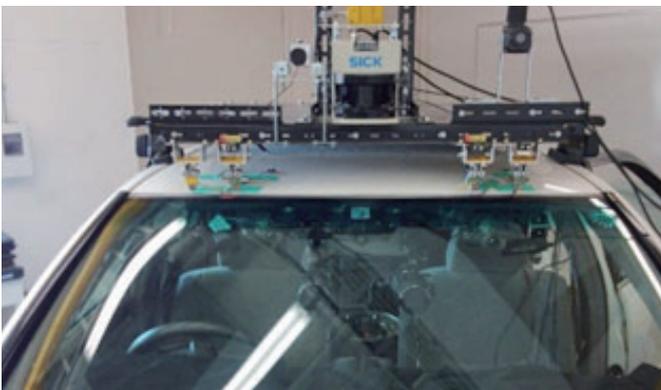
【安全運転支援】道路損傷分類、異常検知、移動物検知、3次元レジストレーション、生体情報処理、PnP等の研究が行われています。実験データの取得のため、実験車両や電動車椅子、脳波計等を有しています。

【自己位置推定】センサーフュージョン、自動運転モビリティの研究が行われています。実験データの取得のため、カメラ、GPS、LiDAR、IMU等の各機器を有しています。

【国際連携と教育】シンガポールやタイからの学生を積極的に受け入れ、研究活動を推進しています。学生たちは多様な視点を学び、グローバルなスキルを身につけていきます。

【主な成果と受賞歴】多くの助成金や研究支援を獲得しており、受賞も頂いています。過去3年間の主な助成は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、独立行政法人日本学術振興会、公益財団法人電気通信普及財団、一般財団法人日本建設情報総合センターなどです。詳細については、リサーチマップやYouTubeを検索し、ご覧ください。

松島研究室では、学生一人ひとりが独自の研究テーマを深められるよう、柔軟で協力的な研究の場を提供しています。今後とも、引き続き本研究室の研究・教育にご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



実験車両



電動車椅子



電動車椅子実験



集合写真

専門学科長による学科紹介

生物応用化学科



生物応用化学科
学科長 石井 努

生物応用化学科では講義授業に加え、実験・実習を通して化学工業とバイオ工業に明るい実践的技術者の育成を行っています。学生実験は、1学年後期の創造化学実験から開始し、2学年の分析化学実験と基礎生物化学実験、3学年の生物化学実験と有機化学実験、4学年前期の物化・化工実験を経験しながら化学と生物学の実験技術の基礎を修得します。4学年後期の応用化学実験・生物工学実験では各教員の研究室でプレ卒業研究を体験し、5学年の卒業研究活動に繋がっています。今回は、化学実験の基礎操作を学ぶ「有機化学実験」について紹介します。

有機化学実験では、有機化学薬品と実験器具の正しい取り扱い方を修得し、実験の基本的な操作である混合・溶解・加熱・冷却・蒸留・結晶・抽出などの方法を学びます。有機化学の講義で学んだ有機反応を実際に薬品と器具を用いて合成反応を行うことで、試薬や生成物の性質、またその反応の理解に繋がっています。実験項目には各種分析機器の測定も設定し、有機化合物の合成、単離・精製から構造決定を行う一連の過程を経験することで、実践的技術者への成長を助勢しています。実験前日までに予備調査を行い、当日は実験経過を注意深く観察し、レポートにまとめることで、レポート作成能力も修得します。

以下に代表的な実験を示します：

- アミド化反応：医薬品の成分となるアセトアニリドの合成技術を学びます
- エステル化反応：エステル結合形成による酢酸エチルの合成技術を学びます
- ジアゾ化とジアゾカップリング反応：染料であるオレンジ II の合成技術を学びます
- ラジカル乳化共重合：高分子材料であるスチレン-アクリロニトリル樹脂の合成技術を学びます
- 有機化合物の構造式作成：Chem Draw ソフトによる有機化合物の構造式の作成技術を学びます
- 吸収と蛍光スペクトル測定：発光化合物のスペクトル測定技術を学びます
- 機器分析：有機化合物の構造決定に用いる機器分析装置の測定技術を学びます



ジアゾ化とジアゾカップリング反応実験



エステル化反応実験



有機化合物の構造式作成



機器分析

専門学科教員による研究室紹介

生物応用化学科・我部研究室



生物応用化学科
准教授 我部 篤

皆様はじめまして。生物応用化学科の我部 篤（がべ あつし）と申します。高専通信100号の発行おめでとうございます。私は化学工学研究室で主に炭素材料に関する研究を行っています。簡単に炭素の特徴に関してお話すると、軽い（原子番号6）、電気を通す、高い表面積を有する（1gあたり4,000㎡）、多様な構造をとる、そして安価が挙げられます。研究室ではこれらの特徴を最大限生かし、革新的な機能を有する炭素材料の研究開発を進めています。近年はバイオマスの主成分であるセルロースから糖成分（燃料となるバイオエタノールの原料）への転換を促進させる炭素の開発や、レアメタルである白金が未使用な燃料電池用の電極材料の開発を行っています。

化学や生物は原子・分子の反応を取扱います。新規炭素の調製を成功させるためにもナノレベル（10億分の1m）での観察が重要で学校や研究室には特殊な設備が備わっています。高温で試料を処理する電気炉、試料から発生するガスを分析するガスクロマトグラフ、ガス吸着設備、糖成分を定量する液体クロマトグラフ、電極の発電量を測定するポテンシostat等です。今年度は研究室には本科の学生が4名、専攻科の学生が3名在籍しこれらの装置を駆使しながら日々卒業研究に励んでいます。高専では比較的早い段階から実験・実習科目を取入れており学生の“フットワークの軽さ”には目を見張るものがあります。高専の教育プログラムが卒業研究をはじめとした実学に近い科目への応用に活きていると感じており教育の重要性を身にしみ感じています。これまでの成果により企業との共同研究にも繋げることが出来、学生はこれらの協働にも参画しています。今年度はトゥールーズ工科大学からインターンシップ生が在籍して学生は国際的なコミュニケーション能力も養いました。引き続き社会全体の動きにも目を見張り学生への教育、研究活動を邁進出来ればと思っています。



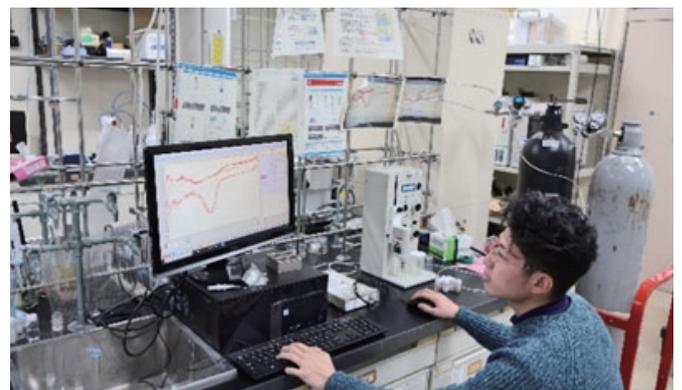
回収した成分の糖分析



合成したサンプルのガス吸着測定



電気炉を使用した脱離ガス分析



電極の電流値測定

専門学科長による学科紹介

材料システム工学科



材料システム工学科
学科長 山本 郁

材料システム工学科では、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで一つの「システム」と捉え、これらに関する一連専門知識を十分に身につけ、社会に貢献できる技術者を育成することを目標としています。材料システム工学科においては、これらの技術者育成の過程で多くの実験、実習が行われています。

1年次では、「材料加工実習」として、鋳造、鍛造、切削仕上加工など、工業材料から製品を製造する方法を、自ら手を動かしながら体験します。これにより、将来のエンジニアに必要な基礎的理解力を身につけることができます。

2年次からは、専門学科教員による実験科目「材料システム実験」が高学年まで続きます。最初に開講される「材料システム実験1」では、材料機器分析に関する実験を行います。2年次に学ぶ「基礎材料化学」に関する実験が行われ、実験器具や分析機器の取り扱い方を理解しながら、中和滴定など化学反応の基礎を学びます。また、レポート執筆方法の習得も目的としています。

3年次では「材料システム実験2」として、金属材料に関する基礎実験を行います。ここでは、光学顕微鏡を用いた金属組織の観察、硬さ試験、引張試験などの機械的特性評価を実施します。特に、学生は初めて行う金属材料の鏡面研磨に苦労している様子が見られます。

本科4年次及び、5年次で開講される「材料システム実験3、4、5」では、実験内容もさらに高度になります。専門科目の講義内容に関連した実験を行うことで材料工学の理解度を深め、レポートもより専門的な考察が求められます。また、研究で利用される高度な実験・分析装置も使用する機会が増え、これらの装置を十分理解し、5年次の総まとめ科目である「卒業研究」で利用する学生も多く存在します。

これらの実験については、現在の社会ニーズに対応できるように順次更新されています。



材料システム実験 1



材料システム実験 2



材料加工実習（旋盤加工）



材料加工実習（鋳造）

専門学科教員による研究室紹介

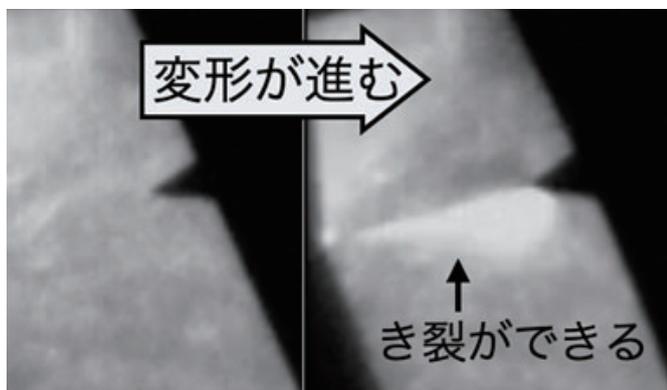
材料システム工学科・佐々木研究室

材料システム工学科
准教授 佐々木 大輔

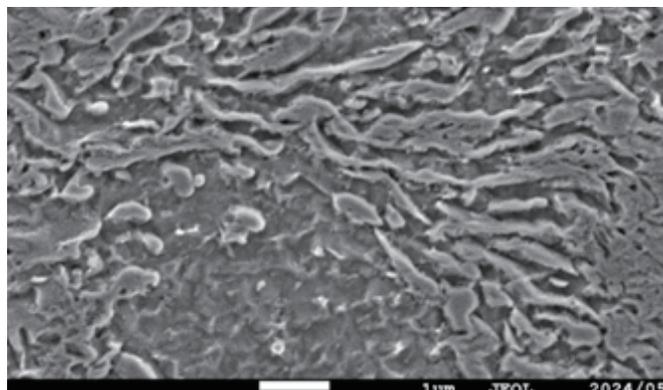
材料システム工学科の私の研究室では、学生と教員が協力しながら「材料強度」をテーマに、社会で役立つ技術の研究に取り組んでいます。研究室では、学生が「自分で考え答えを出す過程」を大切にしています。和気あいあいとした雰囲気の中で週1回チームごとにミーティングを行い、実験結果の報告や研究でうまくいかない点を話し合い、教員と次に何を行うのかを決めます。学生たちが実験計画を立て、試行錯誤を繰り返すことで、問題解決能力とチームワークを育てています。これらの力と経験は、社会に出た時に大きな武器になります。

研究テーマの1つでは、新しい材料を機械部品に用いた場合、「どのくらいの力に耐えられるのか」を実験とシミュレーションで評価しています。まず、大きなハンマーを用いた衝撃試験を行い、金属がどのくらいのエネルギーを吸収できるのかを計測します。試験の様子をハイスピードカメラにより撮影し、どのように壊れていくのか解析します。さらに、金属がどこから壊れるのかを詳しく調べるために、電子顕微鏡を使用して解析も行います。破壊の様子を観察し、壊れる原因を突き止めることで、より強く長持ちする材料の開発に繋がります。これらの実験とシミュレーションで実環境でどれだけ安全に使えるかを評価します。この一連の取り組みは、現場で使用される材料や加工熱処理技術の改良と技術相談につながることもあります。これまでの卒業生は、材料開発や機械部品分野で活躍しています。

佐々木研究室では他高専連携・地域企業連携・大学連携と協同教育にも力を入れています。2024年3月開催の「高専マテリアルコンテスト」では、他校の学生と交流し、技術力を競い合いました。また、6高専合同で取り組むGEAR5.0プロジェクトでは、異分野交流や発表能力の向上を目指しています。こうした活動を通じ、学生たちは学んだ知識を社会で活かす力を養っています。



衝撃試験における試験片の破壊過程（卒業研究）



電子顕微鏡による鉄鋼の金属組織観察（専攻科研究）



水素アイデアハッカソンでの6高専によるグループワーク

高専マテリアルコンテスト交流会での
学生と大学教員の交流

学生会の取組（高専祭）

文化祭実行委員長に聞いてみました！



文化祭実行委員長
久富 龍之介

Q1. 今年の文化祭はどうでしたか？

今年の文化祭は、学生だけでなく多くの一般客のご来場を賜り、実行委員長としてとても充実感に満ちたイベントとなりました。実行委員会としては新たな企画や工夫を取り入れ、来場者様に楽しんでいただけるよう取り組んできましたが、何よりも出店・展示やステージ出演にて協力してくれた学生の支えがあったからこそ実現できました。初日は大雨の影響で出店見合わせなどありましたが、無事に開催できて今は安堵しています。

Q2. 実行委員長になった理由とやってみての感想を教えてください。

実行委員長になった理由は、文化祭を通じて学校が一つになる瞬間が好きで、より多くの人にその気持ちを届けたいと思ったからです。また、1年生の時に見た実行委員長のカッコよさに惹かれていたのも理由の一つです。実際になってみて感じたことは、コミュニケーションの大切さです。実行委員長としてみんなの仕事を把握するよう努めてきましたが、まだまだ至らず、実行委員の皆ともしっかりと話をするべきだったなと思いました。

Q3. 今年の文化祭で工夫した点などを教えてください。

例年課題になっているゴミに関する問題は、誰が来ても綺麗と思ってくれる文化祭を心がけ、実行委員会としてはたくさんゴミ箱を設置したり、定期的なゴミ袋を交換を徹底するなど対策を講じました。また、子供の来場者様が楽しんでいただけるようにスタンプラリーを実施したり、例年よりはるかに多い数の出店・展示を受け入れ、子供から大人まで幅広く楽しめるイベントになるよう工夫しました。

Q4. 最後に久留米高専の文化祭の魅力を教えてください。

ズバリ文化祭の魅力は、学生全体が一体となり、個性やアイデアを充分に活かし来場者だけでなく運営する学生も楽しめることです。普段の授業では見られない新たな一面を披露し、互いに刺激し合うことで生まれる活気が最大の特徴です。また、クラスや部活動ごとの企画やパフォーマンスを通じて、達成感を共有できるのも大きな魅力です。そんな笑顔溢れるイベントを一から作り上げる文化祭実行委員会に皆さんも入ってみませんか？



学生会の取組（高専祭）

体育祭実行委員長に聞いてみました！



体育祭実行委員長
福元 崇眞

Q1. 今年の体育祭はどうでしたか？

今年度の体育祭は、みんなで作り上げた体育祭だったと思います。スローガンは「体育祭来ないやつ危機感持った方がいい～予算厳しいって～」でした。このスローガンにもある通り、予算が厳しい中で行われた体育祭でしたが、その分、学校中のみんなが支えあって完成することができたと思います。また、今回はプログラムを大きく変えてみるなど、かなり挑戦的な体育祭だったと思います。

Q2. 実行委員長になった理由とやってみての感想を教えてください。

実行委員長になった理由は行事の運営を本格的にしたかったからです。今までの体育祭は5年生が中心に動くことが多かったのですが、今年度の実行委員は5年生の人数が極端に少なく、もっと他学年を巻き込んだ行事にしたい！と思って実行委員長に立候補しました。私の経験上、学生をリードする役職には何度かついたことはありましたが、一番大変だったんじゃないかと思います。

Q3. 本番に向けて苦労した点などを教えてください。

本番に向けて苦労したことは、他学年も積極的に運営に参加できるように地盤を固めることです。5年生中心の運営から他学年を巻き込む運営にするため、例年より大きく変更して準備にとりかかりましたが、役割分担が上手くいかず、かなり難しかったです。今回体育祭を運営していく中で出てきた課題もたくさんあり、運営方針を完璧に固めることはできませんでした。ここで得た経験を糧に来年度は頑張ってもらいたいです。

Q4. 最後に久留米高専の体育祭の魅力を教えてください。

久留米高専の体育祭の魅力は何といっても熱量だと思います。日程上、文化祭の後に行われる体育祭は、高専祭のフィナーレであり、みんなテンションMAXです。応援団や大看板は夏休み前から準備する学科もあり、その迫力は誰もが目に來る価値があるものです。閉会式はどんな結果であれ、学科関係なく盛り上がりを見せてくれます。実行委員会だけでなく、この日のために頑張ってきた人が報われる瞬間は他に味わえないと思います。



課外活動報告

陸上競技部部長が語る我が部の魅力！



陸上競技部
部長 堀松 幸

Q1. 陸上競技部の活動内容を教えてください。

陸上競技部では、個人競技の練習と試合が主な活動です。練習は平日16:30~19:00、休日9:30~12:00に行い、基礎作り後に長距離、短距離、フィールド競技に分かれて練習をします。長距離はインターバル走やペース走、短距離はフォーム確認、フィールド競技は実技中心です。試合は4月~9月に月1回程度あります。

Q2. 陸上競技部の魅力はどんなところですか？

陸上競技部の魅力は、少しずつ記録が伸びていく楽しさと目標を達成した時の達成感です。陸上競技は「キツイ」「すぐに結果が出ない」というイメージを持たれがちですが、日々練習を重ねることで、少しずつ成長を実感できます。そして、ある日ふとした瞬間に、今まで届かなかった記録を達成できるようになります。特に、走り終えた時の自己ベストや目標を超えた瞬間の達成感は、言葉では表せないほどです。その達成感が「もう少し頑張ろう」と思い、キツイ練習でも楽しいと感じさせてくれる好循環を生むことが、陸上競技部の大きな魅力の理由だと思います。



Q3. 今後の部としての目標をお願いします。

陸上競技部の今後の目標は、個人では全員が自己ベスト更新、チームではリレー、マイルリレーで高専大会入賞を目指すことです。自己ベスト更新に向けては、日々の練習から個人の問題点を意識して改善していき、リレーではチームとしての力が試されるため、皆で協力して来年の試合に向けて冬の練習の質を高めて目標を達成していきたいです。

吹奏楽部部長が語る我が部の魅力！



吹奏楽部
部長 金山 佳弘

Q1. 吹奏楽部の活動内容を教えてください。

私たち吹奏楽部は、週に2~3回、放課後に練習を行っています。個人のスキルアップを目指す時間と、みんなで合奏を楽しむ時間をバランスよく取り入れています。演奏する曲はクラシックからポップス、映画音楽まで幅広く、部員それぞれが好きな音楽を提案し、みんなで演奏を楽しんでいます。また、文化祭や地域のイベントに積極的に参加し、多くの人に音楽の楽しさを届けることを大切にしています。

Q2. 吹奏楽部の魅力はどんなところですか？

吹奏楽部の魅力は、何といたっても暖かい仲間と高めあう雰囲気です。部員同士が仲が良く、初心者も経験者も分け隔てなく、互いにサポートしながら活動しています。一人ひとりが自分の好きな音楽に情熱を注ぎ、その個性が合奏に反映されることで、より豊かな音楽を作り出せることが自慢です。また、演奏だけでなく、練習の合間に和やかに雑談したり、時には一緒に出かけたりと、部活動を通じて深い絆を築けることも魅力の一つです。競争が激しい大会に向けての努力もしますが、何よりも音楽を楽しむことを第一にしている点が、私たちの吹奏楽部らしさだと感じています。



Q3. 今後の部としての目標をお願いします。

私たち吹奏楽部の目標は、コンクールで上位入賞を果たすことです。そのために、一人ひとりの技術向上を目指し、日々の練習に取り組んでいます。しかし、それだけではなく、地域イベントや学校行事などを通じて、多くの人に私たちの音楽を届けることも大切にしています。これからも音楽を楽しむ心を忘れずに、部員全員が目標に向かって成長していけるよう努力していきます！

課外活動報告

英会話部部長が語る我が部の魅力！



英会話部
部長 大城 一之

Q1. 英会話部の活動内容を教えてください。

週一回、外部講師のPenner先生とTabooやScrabble、人狼などの英語を用いたボードゲームを行ったり、ディスカッションをしたりしています。英語で映画鑑賞を行ったり、留学生と交流を行ったりすることもあります。可能な日には毎日短時間NHKラジオ番組の教材でリスニング／スピーキング力を鍛えています。また、大きなイベントとして、年に一回、希望者はプレゼンテーションコンテストの練習をし、選ばれた人は九州大会に出場をしています。

Q2. 英会話部の魅力はどんなところですか？

まずは、授業やテストのように堅苦しい感じではなく、英語が苦手な人でも気軽に入って活動しやすい雰囲気があるところです。英語が出てこなくて詰まったときや間違った時には先輩部員や外部講師の先生が優しくサポートして下さり、とにかく英語を使ってみようと思えるような雰囲気が出てきているため、楽しく安心して活動できます。時に留学生と交流する機会があり、異文化交流ができます。英検やTOEIC、単語集などの英語学習関連の本も

増えており、真剣に英語を伸ばしたい人はそれらを利用することもできます。英語プレゼンテーションコンテストに参加でき、顧問の先生の個別の指導のもと、発音やプレゼンの能力を大きく伸ばすことができます。

Q3. 今後の部としての目標をお願いします。

今後は、さらに英語での漫画や歌なども加えるなど、外国文化を楽しみながら親しめる活動の種類を増やしていきたいです。英語版の社会や理科、数学などの海外の教科書にも触れてみたいと思っています。また、活動の中で学んだ単語や表現をその場だけではなく、記録に残し、振り返っていけるようにしていきたいと考えています。九州英語プレゼンテーションコンテストでは、5年連続入賞に向けてまた挑戦していきたいと思っています。



退職教職員挨拶

学校や教職員の時間と学生の時間



制御情報工学科
教授 江頭 成人

研究活動を続けたくて佐賀県立多久工業高校（現 多久高校）を6年で退職した1992年の春に本校制御情報工学科助手として採用していただいて33年間、お世話になりました。採用直後から電子計算機室（現 総合情報センター）の業務を延べ20年務め、図書館だより第74号にまとめさせていただきました。また、担任は13回、うち4回は5年次でした。企業のみならず高専教員等で活躍している卒業生もいてうれしく思っています。ただ、秩序を乱さぬためとはいえ退職年度に4年担任を引き受けてしまい、クラスや関係者の皆様にご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。

私は高専を33回も繰り返しましたが、学生は高専5年を1回です。学生もそうでない方も、学生の経験はその1度きりであるという意識を持つ必要があると思います。学校での時間がさらに充実したものになると思います。

各種コンテスト・体育大会結果一覧

第 61 回九州沖縄地区高専体育大会

競技種目	種目詳細	氏名	成績
陸上競技	男子三段跳	井寺 快斗	優勝
	男子円盤投	黒澤 凛太郎	優勝
	女子やり投げ	本庄 眞子	第 3 位
	男子走高跳	和田 健汰	第 3 位
バドミントン	男子団体		第 3 位
水泳	男子 800 m 自由形	高木 琉成	第 3 位
	女子 50 m 自由形	塩谷 芽生	第 2 位
	女子 100 m 背泳ぎ	塩谷 芽生	第 3 位
	女子 100 m パタフライ	小久保 礼奈	第 3 位
	女子 4 × 50 m フリーリレー	小久保 礼奈 塩谷 芽生 赤崎 麻衣子 永松 和子	第 3 位
	女子 4 × 50 m メドレーリレー	小久保 礼奈 塩谷 芽生 赤崎 麻衣子 永松 和子	第 2 位
バスケットボール	男子		第 3 位
	女子		第 3 位
硬式野球			優勝
剣道	男子団体		優勝
バレーボール	男子		第 3 位
	女子		準優勝
硬式テニス	男子団体		第 3 位
	女子シングルス	上江洲 日和	第 3 位
ラグビー			優勝

第 59 回全国高専体育大会

競技種目	成績
硬式野球	第 3 位
ラグビー	第 3 位

第 10 回九州沖縄地区高専弓道大会

クラブ	表彰学生氏名	成績
弓道部	吉田 瑞姫	第 2 位

「Ikenobo 花の甲子園 2024」九州北大会

クラブ	メンバー氏名	成績
華道部	緒方 誠悟、中西 実莉、納富 真優	優勝

第 57 回（令和 6 年度）九州沖縄地区国立高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

クラブ	表彰学生氏名	表彰内容
英会話部	中村 佑	暗唱部門 第 2 位
英会話部	堀松 幸	プレゼン部門 第 3 位

日本心理学会第 88 回大会「学部生・高校生プレゼンバトル」

表彰学生氏名	表彰内容
鬼島 愛花	総合優秀賞

令和6年度大学編入学合格状況等

令和7年1月末現在

大学名	合格者数	学科内訳
東北大学	1	電気電子工学科
群馬大学	1	電気電子工学科
千葉大学	1	生物応用化学科
筑波大学	3	電気電子工学科(1)、生物応用化学科(2)
長岡技術科学大学	1	材料システム工学科
東京科学大学	1	材料システム工学科
富山大学	1	材料システム工学科
岐阜大学	1	生物応用化学科
静岡大学	1	生物応用化学科
名古屋大学	1	材料システム工学科
豊橋技術科学大学	5	電気電子工学科(3)、生物応用化学科(1)、材料システム工学科(1)
京都工芸繊維大学	1	生物応用化学科
神戸大学	1	生物応用化学科
島根大学	1	電気電子工学科
岡山大学	2	電気電子工学科、生物応用化学科
広島大学	2	制御情報工学科、生物応用化学科
九州大学	1	機械工学科
九州工業大学	10	機械工学科(1)、電気電子工学科(2)、制御情報工学科(5)、生物応用化学科(1)、材料システム工学科(1)
佐賀大学	5	電気電子工学科(1)、制御情報工学科(1)、生物応用化学科(2)、材料システム工学科(1)
熊本大学	12	機械工学科(2)、電気電子工学科(3)、制御情報工学科(2)、生物応用化学科(1)、材料システム工学科(4)
合 計	52	

令和6年度久留米高専専攻科合格状況

大学名	合格者数					
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科	計
久留米高専専攻科(推)	4	3	5	3	6	21
久留米高専専攻科(学)前期	5	5	3	1	6	20
久留米高専専攻科(学)後期	3	2	1	—	—	6
合 計	12	10	9	4	12	47

令和6年度専攻科・大学院合格状況

令和7年1月末現在

大学名	合格者数		
	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	計
東北大学	1	—	1
総合研究大学院大学	—	1	1
東京科学大学	1	—	1
九州大学	5	12	17
九州工業大学	3	—	3
熊本大学	—	1	1
合 計	10	14	24

令和6年度（令和7年3月）卒業予定者の就職内定状況

令和7年1月末現在

機械工学科	J-POWER ジェネレーションサービス(株)、MHI パワーエンジニアリング(株)、(株)エニバ、(株)タンガロイ、(株)デンソー九州、(株)トヨタプロダクションエンジニアリング、パナソニックオートモーティブシステムズ(株)、久光製薬(株)、三菱重工業(株)、三菱電機(株)、東京エレクトロン(株)、(株)東日製作所、(株)東洋新薬、日鉄エンジニアリング(株)、富士電機(株)、本田技研工業(株)
電気電子工学科	NEC フィールディング(株)、TOPPAN (株)、(株)アーバンリサーチ、(株)アビリティカ、アマゾンジャパン合同会社、キヤノンマーケティングジャパン(株)、コニカミノルタジャパン(株)、シンクロジスティクス(株)、(株)タマディック、パーソルクロステクノロジー(株)、マブチモーター(株)、旭化成(株)、九電テクノシステムズ(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、三菱電機ビルソリューションズ(株)、昭栄化学工業(株)、新日本レイキ(株)、日本たばこ産業(株)、日本放送協会、富士通(株)
制御情報工学科	AMEC コンサルタンツ(株)、Japan Advanced Semiconductor Manufacturing (株)、(株)NTT データ、(株)QT ネット、SUBARU テクノ(株)、(株)インフォコム西日本、エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)、キヤノンシステムアンドサポート(株)、(株)クボタ、デジタルトランスコミュニケーションズ(株)、パナソニック(株)、パナソニックオートモーティブシステムズ(株)、(株)ラック、京セラコミュニケーションシステム(株)、九州電力(株)、九電テクノシステムズ(株)、東海旅客鉄道(株)東芝デバイス&ストレージ(株)、日信電子サービス(株)、日本アイ・ビー・エムデジタルサービス(株)、(株)日立情報通信エンジニアリング、富士通(株)
生物応用化学科	DM 三井製糖(株)、KM バイオロジクス(株)、MHI ソリューションテクノロジーズ(株)、グンゼ(株)、ダイキン工業(株)、(株)ヤクルト本社、(株)レゾナック、旭化成(株)、協和発酵バイオ(株)、三洋化成工業(株)、出光興産(株)、太陽ファルマテック(株)、大日精化工業(株)、第一三共(株)、沢井製薬(株)、中外製薬工業(株)、島津プレジジョンテクノロジー(株)、東京ガスネットワーク(株)、(株)東洋新薬、飯塚市役所、富士石油(株)、味の素(株)
材料システム工学科	JX 金属(株)、TANAKA ホールディングス(株)、アスカコーポレーション(株)、(株)クボタ、京セラ(株)、原子力規制委員会、(独)国立印刷局、三井金属鉱業(株)、(株)三松、(株)神戸工業試験場、田中藍(株)、東京エレクトロン(株)、東京製鐵(株)、日之出水道機器(株)、日本冶金工業(株)、富士ダイス(株)

令和6年度（令和7年3月）専攻科修了予定者の就職内定状況

令和7年1月末現在

機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻
A G C(株)化学品カンパニー DMG 森精機(株) FancyWebmate (株) T O T O(株) (株)インフォコム西日本 キオクシアシステムズ(株) (株)ソリトンシステムズ デンソーテクノ(株) パナソニックコネクタ(株) (株)ヒップ (株)関電工 西日本電信電話(株) (株)福岡銀行	Japan Advanced Semiconductor Manufacturing (株) グンゼ(株) 旭化成(株) 昭栄化学工業(株)